

様式 2

平成24年度 安曇野市食育推進会議（第1回） 会議概要

- 1 審議会名..... 安曇野市食育推進会議（第1回）.....
- 2 日 時..... 平成24年6月25日 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場..... 穂高健康支援センター.....
- 4 出席者..... 本郷会長、小山副会長、中田委員、一志委員（有賀・柳澤）、阿部委員、手塚委員、松田委員、宮坂委員、等々力委員、豊田委員、保高委員、南沢委員
- 5 市側出席者..... 飯沼健康福祉部長、太田健康推進課長、奥村課長補佐、岩原管理栄養士、上条保健師、塚田係長、丸山係長、笠井歯科衛生士、牧瀬管理栄養士、長田管理栄養士、小川管理栄養士
- 6 公開・非公開の別..... 公開.....
- 7 傍聴人 0人..... 記者 0人.....
- 8 会議概要作成年月日 平成24年7月5日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開 会
 - (2) 委嘱書交付
 - (3) 健康福祉部長あいさつ
 - (4) 自己紹介
 - (5) 安曇野市食育推進会議条例について
 - (6) 会長・副会長選出
 - (7) 協議事項
 - ① 平成23年度食育推進事業報告・平成24年度食育推進事業予定について
 - ② 平成24年度食育推進予定について
 - ③ 食生活アンケートについて
 - ④ その他
 - (8) 閉会
- 2 審議概要
 - ①□ 平成23年度食育推進事業報告・平成24年度食育推進事業予定について
(会 長) それでは、平成23年度食育推進事業報告・平成24年度食育推進事業予定について事務局より説明をお願いします。
(事務局) 平成23年度食育推進事業報告・平成24年度食育推進事業予定についての説明
(会 長) 多岐に亘り、平成23年度実績と平成24年度予定について報告がありました。ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。
(委 員) 広報あづみに「みんなで考えたい食のこと」という記事があるが、みんなで考えたい食のことと言われてもこれを見て何を考えたらよいかすぐ分からないのではないかと、もうちょっと具体的に載せていただければありがたい。市民の皆さんから具体的にこういうことをやっている、悩んでいるということを募集してみんなで考えてもらうだけでも意味があると思う。できたらその中からピックアップして載せていく、具体化に向けて資料提供、啓蒙をしていただければありがたい。それから、学校の給食指導について、毎日ごはんを食べているのにある学校では学校目標をここに上げている。具体化をすともっといろいろできると思う。食育で一番やりやすいのは自分で作ることだと思う。小学校では作ることをやっている。中学校になれば30時間かけて作る授業がある。ある調査を見ると大人になると50%くらいは調理体験をしている。特に若い方。退職した者が作っていない。退職した者は作れば奥さんへの感謝の気持ちを持っていると思う。退職した人間はもうちょっといろいろやっているということを反省の弁として載せればいくらか一歩前進できる気がする。
(会 長) より具体的に実践できるような内容が必要かと思う。平成23年度の実績に対する反省・評価によって平成24年度は決まってくると思う。
(委 員) 各課で課題を明確にしてほしいと思う。アンケートの予備調査として課題を明確にする。
(会 長) 市民のご意見を適切に吸い上げて判断して生かしていく。
(事務局) 今後は実績に対する反省をしていきたいと思う。国の指針も周知から実践へと変わってきている。実践が大事であるということ。すぐには反映できませんが、次回の計画の中に入れて方向性としてはそういう方向性にもっていきたいと考えている。
(委 員) 各学校から出ている計画というものは、今年はもう少し具体的にやってくださいという注文はでき

ますか。

(事務局) 組織的にも違いますし、こちらからこのようにしてほしいという方向性はできません。

(委員) 指導計画に基づいてやっていますよね。給食のことはどうですか。

(事務局) 保育園についてはある程度反映できるかと思う。

(委員) 給食センターの給食について、アンケートにおいしくない、残すとあった。塩けが足りないという声も聞いた。しかし塩けが足りないのは健康を考えているからですよ。そういうことを給食センターから学校に啓蒙していかないといけない。

(事務局) 今日ここで出していただいた意見は庁内会議という市としてのセクションがあり、そこで出して計画の参考にしてもらう役割がある。今日出していただいた意見は無駄になりません。出していただいたものをフィードバックしていく形になる。

(委員) 「青少年のメタボリック症候群を考える会」研究会、長野県栄養士会中信支部、学校教育課で昨年親子料理教室を開催し、とても好評でお母さんたちに喜んでいただき、長野県栄養士会としても一緒にやっていただいたことを感謝している。平成24年度のところに三郷小学校以外で継続を検討と書いてあるが、具体的な考えはありますか。

(事務局) 本日教育委員会がみえていないのでなんとも言えませんが、教育委員会では今年度検討するという話でお聞きしている。それが具体的にになっているかどうかまでは確認していません。

(委員) 事業をやるにあたっては、5、6月に県の栄養士会の方から事業内容を提案され、場所を決めて事業をやっていく。もし安曇野市の方でそういう要望があれば栄養士会に言っていただくとこちらも早期に連絡をとって場所等決めていくことができる。今年度は他の地域でやることが決まっているが、来年度やろうと思えば可能なので、もしご希望がありましたらお声をかけてください。

(会長) 変更事項が他にもいくつかありますね。ご確認いただいて、またの機会に分かりましたらお知らせください。

(委員) 小学校の食育の取り組みについてですが、穂高西小学校で昨年度、5年生が学校の授業で料理を作って、家へ行ってまた家族と作ってとてもよかったと聞いた。とてもいいモデルだと思うので、個人でも学校でもそういうモデルを紹介していただければありがたい。

(会長) 一つ一つの評価、すごく良かったことをまたやりましょうというものをに入れていただくとより分かりやすいと思う。

(委員) 仕事の関係上、安曇野地域の学校給食施設等も拝見しているが、以前に比べると食育活動を一生懸命やっている。センターも新しくなったところが多く、ここ数年衛生的にさせていただいている。特に昨年から今年にかけて空中放射線の測定が始まり、業務的にも負荷がかかっているにもかかわらず食育に力を入れてくださっていると思う。ここにも書いてある栄養教諭というのが長野県内にたくさん配置されていて、昨年に比べて今年は長野県中で60人増えている。将来はもう少しずつ増やしていくだろうなという方向にある。「来年度栄養教諭を新たに増やしますか」という問いかけが県の教育委員会から出されたそうですが、特に安曇野市からはお答えがなかったのが、今年安曇野市は増やさなかったと言われた。昨年せっかく中部センターにいた方が松本市に行ってしまう、新しく北部センターにいた方が資格をとって栄養教諭になられた。せっかくだったら中部センターの方も残していただければ、ますます力がついてよかったのかなと思う。また今後栄養教諭を増やす時に県内で何十人も増やすことはそう多くはないのかもしれないので、ぜひ栄養教諭を増やしていただけるとありがたいと思う。ただ栄養教諭と言っても今までの給食センターの仕事をしながらなおかつ栄養教諭の仕事もしということ、特に自校給食でやっているところですよと栄養教諭の働きやすさがあると思いますが、センターだとたくさんを学校を所轄している。そういうところも一緒に考えていければ素晴らしいことができるのではないかなと思う。

(会長) 貴重な情報をありがとうございます。そういったところも事務局は前向きにご検討ください。

(委員) すべての年代に共通した施策というところが少ない。学校では親も栄養教諭から聞いたことを聞きたいというようなことがアンケートに書いてあった。一番抜けている世代の青壮年期は食育に子どもを通して関心があるのだけれど、直に情報やイベントが乏しい。

(会長) 何かご提案はありますか。

(委員) 講演会という形もいいが、いろいろな団体の方たちがいらっしゃるので、地域で料理講習とかイベントがあったら関心が持てる。減塩等も自分が病気にならなければ関心がもてないのでそういう講演会等の企画をしてほしい。

(委員) 親が自覚、親が中心ですよ。愛情込めて作っていることが一番の食育です。そういうことを啓蒙していただきたい。夫も協力することが大事だということをも具体的に言っていただきたい。栄養については、栄養のあるメニューを紹介していただくと参考になる。

(会長) 市民の方がたの意見を効果的に吸い上げキャッチして、効果的に発信する。そういうのがどこまでできるか。私たちもそうですが、机の上だけではなくて実践に結びついて市民の方ができるような形で少しでも吸収していただければと思う。

(委員) 食育はすべての世代に関係することだと思います。小学生では、給食の時に栄養士から「今日の給食はこういうことです。地域の食材はこれです。こういう願いを込めて給食を作りました。」というお手紙が毎日入っていて、毎日全校放送で読んで、子どもたちに話をしている。栄養士も年に数回学校の方に来てクラス訪問で栄養の話をしてくださっている。養護教諭も保健指導で朝食の大切さ

を話している。小学生は学校にいれば話を聞く機会があるし、それぞれの学年でいろいろな食べ物を作っている。2年生は黒大豆を作って種をまいて収穫してたくさん出来ると給食センターで給食に入れてもらって食べるというようなこともしている。一番困るのは親世代で、親が朝食を食べない生活をしていて、子どもも何も食べてこないという子が中にはいる。親世代に向けて講演会とか開かれるといいなという希望がある。

(会 長) やはり家族が一番大事。これは我々が取り組んでいるテーマになる。家族にどのようにして啓発活動を推進していくか。昨年の食育シンポジウムなんてかなりすばらしい企画かと思う。この辺は私の考えを言うと、もう少し出席者をたくさん得られるようにどういう風に情報発信をするかというところが重要なと思う。今後の課題だと思います。

(委 員) 感謝というのも大事だと思う。特に最近聞くのは給食費が滞っている方が結構多いみたいですし、感謝について「いただきますごちそうさま」というのがないというお話を聞く。まず親御さんの教育をもっと徹底的にやらないといけない。食育は食べるだけではなく、その前段階ができないのが現状のような気がする。講習会をやれと言うなら調理師会としていくらでも受けます。それより先に親御さんをなんとかやっていかないと学校給食自体が立ち入っていかないような気がする。それと味が悪いというお話がありました。それはダシの取り方。美味しいダシをとれば、塩とか醤油とか少なくて済む。いくらでも美味しくできる。その辺は私たちがいくらでも担っていきたく思う。まず先に感謝できないような、お金払っていただければいいような、ありがたうと言えないような、親をなんとか嫉まなきゃいけないと思う。それも食育の中の1つとして大きく入れてなんとかしていければと思う。

(事務局) 情報発信ですが、私たちの活動の中でいろんな場で教室を開いたり講演会を開いたりしている。まったくしていないわけではないのですが、なかなか人が集まらない。効果的な情報発信ができていくかというところが問題。どういう風に周知をすればいろんな人が来てくださるのかということ。私たちだけで考えていても、今までも取り組んできてあまり参加者がいないという状況があるので皆さんからいいアドバイスがあれば教えて頂きたい。

(委 員) あんまり広く集めるのではなく、1つか2つの公民館単位でやるといいかもしれない。担当課だけでやっても無理ですね。

(事務局) 食生活改善推進協議会という団体がいます。地域に出て公民館を使いながら料理を伝達して下さっている。そういう場があるけどもなかなか集まってくださらない。どういう風に周知すれば人が来てくださるのかというのは大きな課題だと思う。

(会 長) そちら辺はまた少しづつご意見をいただいて、いろいろなやり方があると思う。考えてみてもいいですね。

(会 長) それでは、平成24年度食育推進予定について事務局より説明をお願いします。

(事務局) 平成24年度食育推進予定についての説明

(会 長) 平成24年度食育推進予定について、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(会 長) よろしいですか。それでは、食生活アンケートについて事務局より説明をお願いします。

(事務局) 食生活アンケートについての説明

(会 長) 食生活アンケートについて、ご質問ご意見等ありましたら、お願いします。

(委 員) アンケートに私が必要だと思うことは食事を作ったことがあるかということ。インターネットで調べてみたら若い親の方は50%くらい食事づくりの体験がある。食育とは自分で作ることができるかできないかということ。そういう体験をどのくらいしているか。あと自由記述、食育を進めていく上で困っていることとか希望することを調べると参考になると思う。実践化に向けてだから実践化に迫れるようなアンケートを作っていくことが必要だと思う。あと食事のお手伝いを子どもに入れるといいかなと思う。

(事務局) 調理をどのくらい体験したことがあるかというのを入れた方がよいというお話でしたが、アンケートの『食育』についてあなたの関心があることはなんですか』の問いの13番目に調理を体験することと載せてあります。今回のアンケートは業者さんをお願いして集計できるアンケートではなく、栄養士や事務が仕事の中で集計をすることになるので、そんなにたくさんの方の声を聞き取ることにはできません。知りたいことを簡潔に聞くというような形になっている。この中で調理を体験することに〇がつけば関心があるという風に受け取って私たちはどういう活動を展開していくか検討していきたいと思う。関心がなければ関心がないということで取り組んでいかなければいけないのですが、傾向はこの調査で分かってくると思う。

(会 長) 私たちもアンケートをとっていますが、自由記述の中にこそ本音の意見が入っているというようなことを言います。すごく大変ですね。人出の問題、時間の問題がありますが、非常に重要なご意見でその中にこそ真実があると思います。市の方で出来るのか出来ないのか検討ください。

(副会長) いろいろ項目を出すと全部そこへ〇がいくと思う。やはり自由記述というのは本当の意見を汲み取るのに重要ではないかと思しますので、考えていただければと思う。

(委 員) そんなにたくさん書きませんよね。全員が書きたくないから私は必要だと思う。

(事務局) 一般のところだけでも自由記述を入れたいと思います。

(委 員) 一般のところは健康診を受けているかというのは入っていましたか。

(事務局) 今年度健康づくり計画を策定する中でそちらの方でもアンケートをとりますが、受診率の調査はそ

ちらで考えています。

(会 長) それでは、その他について何かありますか。

(委 員) 送っていただいた資料の中に食育ガイドという内閣府が作ったものがある。これは内閣府のホームページからインターネットでとることができ、カラーで綺麗にプリントできる。ページ単位でも印刷でき、食品衛生や表示のこと災害への備えなんかもあり、ページ単位に使えてこれは使いやすいような資料だと思って拝見した。皆さんが何か自分たちで企画をする時等に使っていただくのにとってもいいだろうと思う。

(会 長) これはいつできたのですか。

(事務局) 平成23年度です。

(会 長) 先週の朝日新聞を見ましたら、食育推進基本計画の他に厚生労働省のやっている健康日本21向こう10年の新しいものが先週できたということ。10年後にいろいろな目標値が設定されています。その中の1つ2つに食育に関係する、例えば野菜摂取量は現在282gを350gに、それから減塩ということで現状より2.6g減らして8g、そのようなことで食育基本計画以外にも新しいことが出てきています。今ちょうどこのあたりは、野菜が非常においしい時期です。こういったタイムリーな時期にどんどんと安曇野市が率先して進んでやっていただければ、よりいいのかなと思う。皆さま方のいろいろなアイデアを今後も出していただいて、少しでもいい方向にいければと思いますので、よろしくお願いします。今日のご協力ありがとうございました。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。